

## 平成 25 年度多摩地域自立支援協議会 第二部 【社会資源】まとめ

### トピック 1 社会資源の把握や活用

- ①社会資源マップ等の作成
  - ②資源の多様な活用
    - ・地域の実情に合わせて、色々な研修や講習会等が行われている。
- 例：ヘルパーの模擬講習会、「おたすけマン養成講座」、都知事候補者討論会、民生・児童委員による学習会

### トピック 2 災害・防災対策

- ①ヘルプカード等の作成
  - ・周知は、説明会の開催や新聞・HP・掲示等の広報等。学校や消防、警察、町内会等、関係機関への周知は、自治体によって様々。
- ②要援護者登録制度
  - ・手上げ方式や手紙郵送時に呼びかけなど。
  - ・自治体が把握しきれていない要支援者の掘り起しにもなるか。
- ③災害、防災に対する協議会活動
  - ・協議会での議論の他、委員会等の組織を作り、検討している所もあり。
  - ・自治体の福祉関係部署と防災関係部署とで対策を進める中で、組織上の問題や個人情報保護の問題が生じている状況も見られる。

### トピック 3 不足する社会資源

- ①24 時間のフォローや相談支援体制→介護保険との兼ね合いも課題
- ②高齢化による緊急対応の増加
- ③発達障害に対するサービスや支援機関の不足
- ④重心施設の入所待機が多い

### トピック 4 サービスに繋がっていない障害者の把握や支援

- ①要支援者の把握の難しさ
  - ・手帳所持者や自立支援医療受給者の数に比べ、サービス利用している人数が少ない。その中には、埋もれてしまっている人がいるのではないか。
  - ・家族だけで見ているケースは分かりにくい。
  - ・一度、サービスと切れてしまった人を再度戻すのは難しい。→高齢化の関係も？
- ②把握の工夫と課題
  - ・行政では、巡回や郵送で把握に努めているが…。
  - ・民生、児童委員の協力は重要だが、委員も苦勞しているようだ。

- ・町内会や自治体からの情報もあるが、個人情報や壁となり、うまく伝わってこない。

## **トピック5 他機関との連携、ネットワーク**

### ①教育機関との連携

- ・特別支援学校卒業の際の対応
- ・連携の例

→特別支援ネットワーク協議会、要保護児童支援連絡会、教育委員会や学校との会議・生育歴のノート作成

### ②地域のネットワーク作り

- ・既存の機関・団体間のネットワークを活用し、情報交換や交流を行っている自治体も多い。

→例：「地域リハビリテーション」協議会（高齢分野との連携）、相談支援連絡会、事業所によるネットワーク 等

- ・事例検討や社会資源の把握を通して、ネットワーク作りや強化が図られている。

## **その他**

### ①虐待防止関係

### ②計画相談について